

一 教育方針

〔1〕 学校教育目標

郷土を拓く大地の教育

菅平の発展は、長い年月にわたる先人の開拓のうえに打ち立てられており、子どもたちの教育は、先人から受け継いだ区民のたくましい開拓精神によって支えられている。

いま、社会が多様化し、国際化・情報化の時代を迎えている。本校では、菅平の自然・歴史・産業・文化を大事に受け止め、この郷土菅平の将来や広く日本の未来を一層拓くために、自己教育力を身につけ、豊かな大地に学ぶ心を育てる教育をすすめる。

めざす子どもの姿（中期目標）

- ① 自分で考え、判断し、行動できる子ども
- ② 自分や友達の良さを認め合える子ども
- ③ 仲間と協力して課題を解決していこうとする子ども
- ④ 自らを鍛える逞しい子ども
- ⑤ 郷土に誇りを持ち、郷土を愛する子ども

【学校長の願い】 「全ての教育活動を子ども理解をベースに展開して」

1 学力の向上について

25年度は「自分から進んで学習を進められる児童・生徒の育成をめざす」を重点目標とし重点活動を①「小中連携の中で学習内容の系統を意識した児童・生徒の学びの質の向上を図るためのTTのあり方を研究する」重点活動②を「中学校卒業時の学力を意識した、9年間の学習の過程のあり方や、各学年の発達に応じた指導のあり方を研究していく」とした。その結果時間を忘れるほど授業に熱中する姿や、相互にかかわってお互いの意見を大切にしながら活動する姿が見られるなど学習意欲は高まって来たが、復習テストなどからは上位生と下位生との差が大きくなりつつあることがうかがえ、習熟の程度に応じた支援の必要性が今まで以上に高まってきている。そこで26年度は重点目標（1）を継続し「自分から進んで学習を進められる児童・生徒の育成をめざす」とし重点活動①を「小中連携の中で学習内容の系統を意識した児童・生徒の学びの質や量の深化を図るために個に応じた学習指導のあり方を研究する」重点活動②を「各学年の発達に応じた“分かりやすい授業”指導のあり方を研究していく」とした。

2 心の教育について

25年度は「互いの良さを認め合い、前向きに取り組む集団生活をめざす」を重点目標とし、重点活動①を「教師自らが子どもの良さを伝え、児童・生徒の意識を啓発する」重点活動②を「小中それぞれの段階に応じたコミュニケーション能力やよりよいかかわり方を身につける」とし取り組んできた。本校でも小1プロブレム、中1ギャップと言われる問題も発生し対応に苦慮したが、外部からの支援を受けつつ重点活動に取り組んだ結果大きな改善が見られ、重点目標に近づくことができた。

そこで26年度は重点目標（2）「互いの良さを認め合い、互いの安全に気を配り、前向きに取り組む集団生活をめざす」と微調整し、重点活動①を「教師自らが子どもの良さを伝え児童・生徒の意識を啓発する」と継続し、さらに「小中それぞれの段階に応じたコミュニケーション能力や理想的なかわり方を身につける」を重点活動②として取り組んでいくことにした。

3 キャリア教育について

菅平では80%以上の保護者が地元産業に就き、また25～35歳の男子卒業生の53.4%は菅平に戻って生活をしているという特徴がある。子どもたちや地域の将来を考えたとき、菅平の産業（農業・観光業）に携わりながら、地域の発展のために積極的に関わろうとする人材作りは欠かせない。25年度は重点目標を「菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる」とし、スキー指導の職業体験を昨年から継続させることにより地域との交流を通して、この地に生きることの喜びを実感させてきた。26年度も重点目標と重点活動を継続し、学校目標の具現に努めたい。

今年度の重点目標

- （1）自分から進んで学習を進められる児童・生徒の育成をめざす。
- （2）互いの良さを認め合い、互いの安全に気を配り、前向きに取り組む集団生活をめざす。
- （3）菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる。